

算数科

1 令和6年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

各学年の正答率は、目標値を大きく上回っており、学習内容は定着しているといえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

正答率は、4年生と6年生は目標値を大きく上回っており、5年生は目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

思考・判断・表現

正答率は、4、5、6年生ともに、目標値を大きく上回っており、学習状況は良好といえる。

主体的に学習に取り組む態度

正答率は、6年生は目標値を大きく上回っており、4、5年生は目標値を上回っている。算数に対する関心は高いといえる。

2 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○算数の用語や学習した内容、児童の作品を教室内に掲示することで、既習事項を生かして自分の考えをもつことができる児童が増えた。

●k mをmで表したり、L をmL で表したりする単位の変換や、適切な単位を選択したり、量のイメージをもったりすることが苦手な児童がいる。体験的な活動を重視し、量感覚を養っていく必要がある。

●平行四辺形の作図において誤答の児童が多く、定着が不十分である。

思考・判断・表現

○問題から必要な情報を取り出して解決に用いることが苦手な児童が多かったが、聞かれていることや分かっていることに印をつけさせたり、具体物を提示して問題文の読み取りを丁寧に行ったりすることで、必要な情報を取り出して立式できる児童が増えた。

●文章問題から図や数直線を考えたり、図や数直線から問題場面を考えたりすることにおいて、定着が不十分である。問題文と図を関連させ、読み取る力や問題を考える力を養う必要がある。

●正答は出せるが、なぜその答えになったのか、根拠を説明できる児童は少ない。図、式、言葉を使って互いの考えを説明し合う時間を設け、表現の仕方や考え方の多様さを養う必要がある。

●具体的な場面や言葉の式を文字や記号で表す、数量関係の一般化でつまづく児童が多い。具体的な事象から一般化へのスムーズな思考の発展のために、「A数と計算」以外の領域の学習においても式を□や○を用いて一般化したり、どの場面や数値でも対応できる方法を考えたりする活動を取り入れる必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

○児童が学習を振り返る場を設けたことで、既習事項との関連や新たな課題に児童自身が気付いたり、自身の学び方を振り返ったりすることができる児童が増えた。

3 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常の生活場面と算数に関連付けた問題作りの時間を単元の中で意図的に設定する。 ・ 作業的、体験的な活動を取り入れ、身近な生活と関連付けて行わせるようにする。 ・ 学習した内容を生かして解決する適用問題を、単元の中で意図的に設定する。	・ アレイ図や数の線を使って、自分の考えを整理してノートに表すかき方を指導する。 ・ 具体物や半具体物を操作したり絵や図で表したりしながら自分の考えをもち、説明できるようにする。	・ 算数の用語（直線、直角、時間、時刻など）や学習した内容を、教室内に掲示する。 ・ 新単元に入る際には、既習事項を想起させる。 ・ 友達と自分の考え方、表し方のよさに気付かせる。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常の生活場面と算数に関連付けた問題作りの時間を単元の中で意図的に設定する。 ・ 作業的、体験的な活動を計画的に取り入れる。平行四辺形・ひし形・台形の定義や性質を活用して、正しく作図できるように指導する。 ・ 学習した内容を生かして解決する適用問題を単元の中で意図的に設定し、解法を比較することで、それぞれのよさに気付けるようにする。	・ テープ図や線分図、数直線を使って、自分の考えを表すかき方を指導する。 ・ 図、表、式、言葉、グラフなど様々な説明の仕方があることに気付き、算数の用語を使いながら自分の考えを説明することができるようにする。 ・ 友達のかいた図、式、表、グラフなどを見て考え方を理解したり、友達と自分の考えを比較したりして、それぞれの考え方のよさに気付かせる。	・ 算数の用語（半径、直径、角、平行、以上、未満など）や既習内容を、教室内に掲示する。 ・ 新単元に入る際には、既習事項を想起させる。 ・ 友達と自分の考え方、表し方を比較し、それぞれのよさを考えさせ、よりよい考えを活かそうとする態度を育てる。そのために、少人数のグループや全体で、考えを交流する活動を繰り返し行う。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常の生活場面と算数に関連付けた問題作りの時間を単元の中で意図的に設定する。 ・ 作業的、体験的な活動を計画的に取り入れる。合同な図形や正多角形、対称な図形等をコンパスや分度器を用いて多様な方法で正しく作図できるように指導する。 ・ 学習した内容と既習の知識を比較し、考えを統合的に捉えさせたり、問題の条件等を変えて発展的に考えさせたりする。図や式を検討する中で、きまりや法則があることに気付かせ、新たな場面の問題を解決することができるという実感を児童にもたせることで、主体的に問題解決に取り組む児童を育成していく。	・ 演算決定の理由や作図の手順、学習のまとめを自分の言葉で書くなど、思考過程を整理して書く習慣を身に付ける。 ・ 数直線や面積図などを使って、帰納的、演繹的、類推的に筋道を立てて考え、式、用語、図などを効果的に使って分かりやすく説明することができるようにする。また、どの解法が便利か、一般化できる方法はどれかを検討させる。 ・ それぞれの考えの共通点や相違点を捉え、考えのよさに気付いたり、問題に応じて使い分けたりできるようにする。そのために、グループや全体で説明したり、交流したりする活動を繰り返し行う。	・ 算数の用語（体積、多角形、偶数、奇数など）や学習した内容を教室内に掲示する。 ・ 新単元に入る際には、既習事項を想起させる。 ・ それぞれの考えの共通点や相違点などから、よさに気付いたり、問題に応じて使い分けたりしようとする態度を育てる。そのために、少人数のグループや全体で説明したり、考えを交流したりする活動を繰り返し行う。

